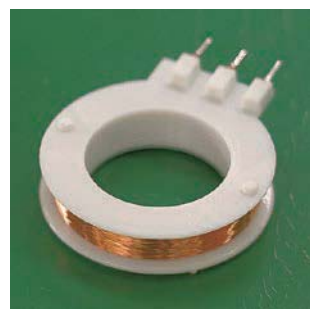


北東北ナンバーワンを目指して

トランス生産で挑む

(株)MIPAL



決起

モーター(MOTOR)のM、パーツ(PARTS)のP、組み立てる(ASSEMBLE)のA、生産ライン(LINE)のL。社名の「MIPAL」は、同社の事業領域を表している。平成17年の創業以来ずっと、時代の変化に対応できる会社の在り方を探りながら、社員一丸となって精進してきた。とある工場が閉業に至ったとき、

長尾さんはその工場の働き手だった。当時の取り引き先からの話を受け、MIPALを創業。地域の雇用を守るという志を共にした者たちが結束し、社名は彼らと決めた。

工場では従業員がコンベアを囲み、流れ作業で量産をしていた。「取り引き先から寄せられた信頼は嬉しかったが、従業員が路頭に迷うことがないよう責任も感じた」と振り返る。

苦難

前社時代の発注を引き継ぐ形で始まった同社は、順調な滑り出しを見せていた。ところが、同社の受注量は半分以下になってしまふ。きっかけは、2008年に起きたリーマンショックだった。追い打ちを掛けるように、東日本大震災が起こった。経済的危機によって受注が著しく落ち込んだ上、物流が途絶えてしまった。時を同じくして、長らく付き合いのあった企業から、モーター生産を内製化して発注を取りやめる話も出てきた。この状況を乗りきるために、銀行から借り入れをしたが、1年ほどで底が見え始めていた。創業して間もないため、経営経験が浅くリストラという手段が候補に挙がらなかった。どんな手を打てばいいのか、わからなかった。同社は苦境に立たされたのだ。

奔走

生き残りをかけるべく、新たな取り引き先を探して関東地方に赴いた。県内の取り引きを中心にしていった同社は、関東での営業は初めてだった。既に関東営業を行っていた町内企業の代表に同行する形で、新規開拓を試みた。すると訪問先の中で悩みを抱える企業があった。非常に短い納期の依頼で、少ない発注数だが、生産が滞り気味であったという。長尾さんは自社なら受注できると思って引き受け、ごく短期間で生産ラインを立ち上げ、製造を行った。納品は代表の長尾さんが自ら走った。先方は、不可能だと思っていた発注が叶ったこと、製品の出来映え、そして代表自ら納品に奔走したことへ驚き、喜んだ。この出来事が信頼につながり、次の発注も手にした。

突破

トンネルの出口が見えた。やがて同社は、産業機器の取り扱いを増やすようになる。量産品よりも収益性があるためだ。そして、以前内製化のため、取りやめになると思われていたモーターの発注が息を吹き返す。技術力とノウハウが求められ、自社製造は軌道に乗らなかつたようだった。無くなりかけた発注は、現在は安定し、先方との関係性は以前にも増して強くなった。内製化の一件で技術力が再評価されたのだ。

関東営業は実り、無くなりかけた発注も事なきを得た。これを起点として、生産ラインを持った量産から、多品種・小ロットの生産へ舵を切り始める。

決断

大きな決断だったのが必然だった。同社が手掛ける製品分野は、大企業を筆頭とした量産は国外へ移っていた。同社は、いわばメーカーの悩みの種を少量注文への対応で解決してきた。今となっては、生産上の課題を提案でもって解決、コストやロスの低減に結びつける。かつて量産を担っていた同社のコスト意識は、小ロット生産を手掛ける同業者よりも長けていたのだ。社名の通り、創業当時から変わらない製品分野とずっと向き合ってきたからこそ見えるものが確かにある。



トランス生産の様子。この製品は導線が太く扱いが難しい。指で圧力を加えることで、導線が整然と巻かれていく。



生産しているモーターコイルやトランス

感謝

この1年、代表である長尾さんが工場長とともに、納品を担っている。輸送に掛けるコストなどを削り、納品先で情報交換やさらなる発注を引き出す。毎週納品することで、地方の地理的ハンデを克服し、距離感を感じさせないようになっている。根底にあるのは、従業員へ感じる恩で、「辛い時期を共に過ごし、共に乗り越えた従業員は仲間」と長尾さんは語る。長尾さんが自ら出向いて納品を続けているのも、利益へつながると考えているからだ。従業員との個人面談も定期的に行い、風通しの良い、働きやすい環境を意識している。地域の雇用を守るという志は揺るがない。

一路

経験を糧に変えることを生産に活かした同社は、次の時代を見据える。トランスと呼ばれる変圧する部品は代替品がなく、今後も現れないと長尾さんは話す。既に国内企業の生産拠点多く国外へ移っている中、小ロット生産の企業は高齢化を理由とした閉業が目立ち、特に関東地方で顕著だという。この流れに呼応して、一般家庭での使用を想定した民生品を量産する生産ラインは手放した。

現在は、鉄道関係や医療関係、官公庁関係の部品の受注もあるという。長尾さんは小ロット生産への思いを「ものづくりの隙間を埋める」と話す。確かな技術とノウハウで、不動のポジションを確立し、次の「隙間」に挑みかかる。



代表取締役 長尾 昭人さん

株式会社 M-PAL (エムパル)

【代表】 代表取締役 長尾 昭人

【所在地】 〒037-0309 中泊町八幡字八幡30-1

【電話】 0173-57-9062

【URL】 <http://www.mpal.co.jp>

【設立】 2005年9月

【従業員】 32人

【業務】 モーターコイル・部品、各種トランス、トロイダルコイル、配電盤・装置(ユニット組立)

